

— 1950年すべてはここから始まりました。

メニコンの創業者・田中恭一は名古屋の中心地、栄交差点にあったメガネ店「玉水屋」にて運命の出会いを果たします。

ある日、常連だったアメリカ軍将校夫人が「私、コンタクトレンズを持っているのよ」と恭一に告げました。好奇心旺盛だった恭一は「ぜひ見せてください」と何度も将校夫人にお願いしましたが、とても高価で貴重なものだからという理由で決して見せてくれることはありませんでした。実物を見られなかったことで恭一は「見せてくれないなら、何が何でも自分で作ってやる」と決心し、コンタクトレンズの研究を開始しました。自らが実験台になり、試行錯誤を重ね、日本初の「角膜コンタクトレンズ」が完成、実用化に至ったのです。研究を開始してから恭一が角膜コンタクトレンズを完成させるまでわずか3ヵ月、世界のスタンダードだった強角膜コンタクトレンズよりも装着感がよく、はっきりと見える角膜コンタクトレンズは新しい価値となり昨今の普及につながりました。“知らなかったからこそできた”という恭一の経験から、人まねをせず、何事にも挑戦し続けるという「メニコンらしさ」が生まれた瞬間です。



玉水屋眼鏡舗の常連だったある米軍将校夫人と恭一。

恭一がコンタクトレンズを開発するきっかけであり、その後の人生を決定づけた運命的な出会い。

## 01 創業者のものづくりに対する考え方

「誰も手掛けていない新しいものをつくりたい」この飽くなき情熱こそが道なき道を照らしてくれた。ものづくりが好きだからこそ想像力が湧き、やがて不可能も可能にする力を生み出してくれると恭一は語っています。そのルーツは欲しいものは買うのではなく、自分で作ることが当たり前であった幼少期時代にあるようです。また、当社の商品開発におい

ては何よりも安全性の確保を第一に考える文化を誇りに思い、コンタクトレンズを通じて広く社会に貢献したいという精神がメニコンのDNAであるとも語っています。



恭一の研究ノート

## 02 創業者から従業員へ伝えたこと、従業員が受け取ったこと

恭一はより安全性の高いコンタクトレンズを作ろうと、従来のアクリル樹脂でなく、素材も独学で純度の高いPMMA(ポリメチルメタクリレート)を自ら作り出す方法を見出しました。そして瞳の健康を維持するために不可欠な角膜への酸素供給が可能な酸素透過性素材の開発に力を入れ、メニコンO<sub>2</sub>、メニコンEXを発売し、その後もつけ心地の良い素材、QOV<sup>※</sup>向上につながるデザインの研究開発に尽力しました。このような恭一が築いた数々の歴史から私たち従業員は、安全哲学・品質へのこだわり・今までにない新しい価値を創出するマインドを受け取りました。

※ QOV：視覚の質を意味するQuality of Visionの略称。

## 03 世代を超えても引き継がれた独創性

### コンタクトレンズ取扱いの課題

1990年代、使い捨てコンタクトレンズの普及により価格競争が激化。販売店は利益を優先し、本来は高度管理医療機器であるコンタクトレンズが安価な日用品のように扱われ、誤った使い方による眼障害が増えていました。後の2代目となる田中英成は業界の状況に強い危機感を覚えました。

### メルスプラン開発

英成は月額費による会員システム「メルスプラン」を発案。このシステムはお金の流れを一般的な小売販売と逆にすることで、メーカー・小売店・ユーザーの三社でwin-win-winの関係が構築でき、業界の常識を打ち破るシステムでした。2000年に社長に就任後、強いトップダウンを発揮し「メルスプラン」を推進してきました。単なる顧客固定化策にとどまらず当社のビジネスモデルを大きく転換するとともに業界の流通に革新をもたらしました。

### マンスウエア発売

当社が日本はもちろん世界で勝負することを見据え、大きな方向転換となる製品の開発を指示しました。当社が培ってきた技術を駆使して、メニコン初の1ヵ月定期交換タイプの「マンスウエア」を発売し、月暦が主流な日本人のライフスタイルに寄り添いました。

### スマートタッチ考案

保存形状の仕様上、コンタクトレンズの目にふれる内側を指で触らなければならない状態でした。「コンタクトレンズを使う前に自分の指で汚さないといけないなんて、本当の意味での清潔ではない。」という考えにより、開発現場との協力のもと、当社の「Magic」「1DAYメニコン プレミオ」にはレンズの凸面が上をくデザインが実装されました。

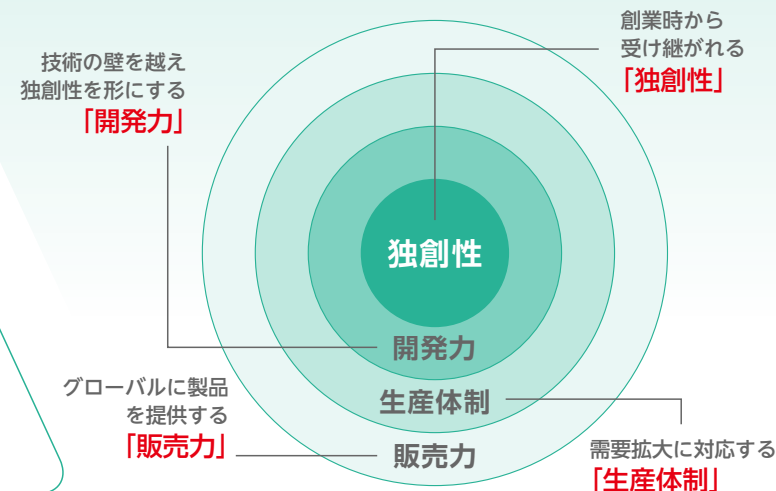


こうした歴史の中でメニコングループの組織風土が形成され、「何もないところから、新たな価値を生み出し、誰もやっていないことに果敢に挑戦する」という創業の理念が経営理念などに反映されています。経営理念のトップに「Values」として謳われている「創造・独創・挑戦」は単なるお題目でなく、創業当初から綿々と受け継ぎ育まれています。当社が歩んだ歴史に裏付けられた価値観を、個人だけでなく、チームや組織で実践し、今後も国内外で成長を続けていきます。



あおいLAB 田中英成による講義風景

### ● メニコングループ4つの強み

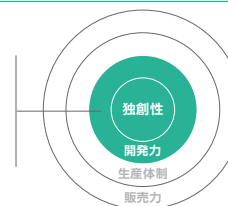




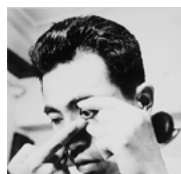
## 挑戦と創造のあゆみ

商品開発は安全性の確保を第一に考える創業の精神のもと、過去より数々の「日本初」「世界初」を創出してきました。メニコンは何もないところから社会に役立つ商品やサービスを生み出す挑戦的な企業風土に下支えられています。

- 創業時から受け継がれる「**独創性**」
- 技術の壁を越え独創性を形にする「**開発力**」



- **1951** 創業者、田中恭一が日本初の角膜コンタクトレンズを開発



- **1953** 商品化第一号「M.T.コンタクトレンズ」発売



- **1973** 日本初のソフトコンタクトレンズ「メニコンソフト」発売

- **1979** 日本初の酸素を通すハードコンタクトレンズ「メニコンO<sub>2</sub>」発売

- **1986** 世界初7日間連続装用可能なハードコンタクトレンズ「メニコンEX」発売

- **1997** 白内障で濁った水晶体の代わりに挿入する日本初の犬用眼内レンズ「メニわんレンズ」発売



- **2001** 既存の常識を打ち破るコンタクトレンズの定額制会員システム「メルスプラン」開始



- **2005** レンズケアの研究で見つかった酵素を活用した稲わら分解促進材「アグリ革命」発売

- **2011** 1日使い捨てコンタクトレンズ「Magic」発売



レンズ容器のプラスチック使用量を約80%削減  
(当社従来品比較)した環境配慮型製品

- **2016** 内側にふれることなく装用できるパッケージ「SMART TOUCH」採用

簡単 & 清潔 SMART TOUCH

シリコンハイドロゲル使用で高い酸素透過性を持つ「1DAYメニコン プレミオ」発売



- **2018** 世界初<sup>※</sup>使い捨てハードコンタクトレンズ「フォーシーズン」発売

※ 世界で初めて定期交換型ハードコンタクト大量生産を  
モールド製法で実現



- **2022** 「resQ45」の製造・販売のノウハウを活かし畜産農家に対する堆肥化コンサルティングを開始

- **2023** 「SMART TOUCH」仕様のソフトコンタクトレンズ用消毒剤「エピカ スマートクリーン」発売